

# Unit4

【How we express ourselves ／ 私たちはどのように自分を表現するのか】  
『意図、認知、解釈、反応』を探究！

## Line1

図工や音楽の意図と解釈

## Line2

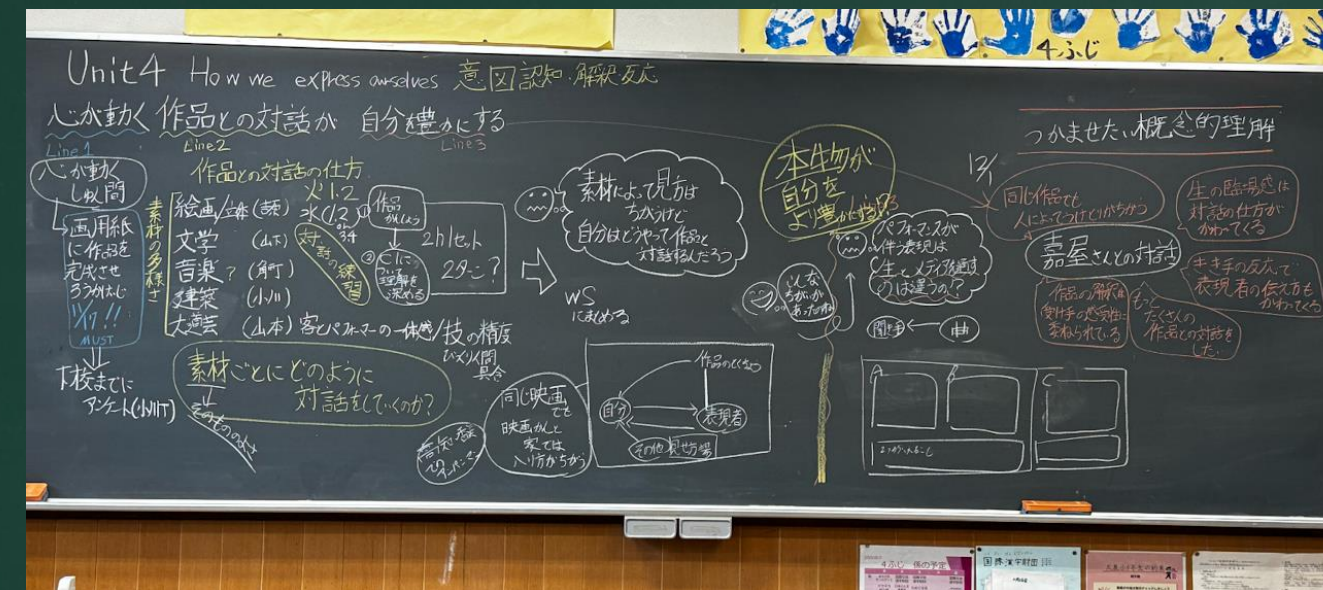
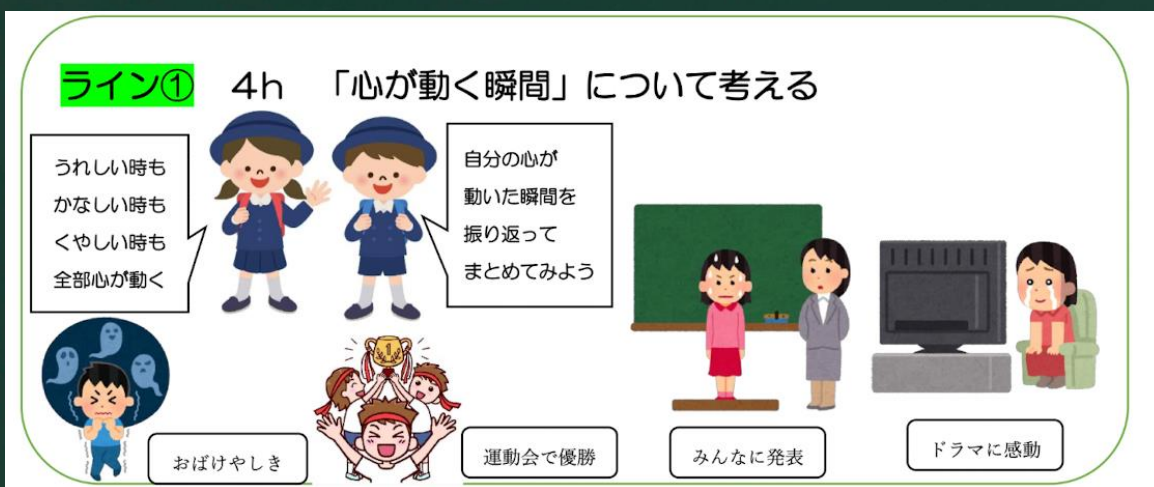
作品の意図と自分の解釈

## Line3

ピアニストとの対話

セントラルアイデア

心が動く作品との  
対話が、自分を  
豊かにする



自分の感情が大きく動いた瞬間を振り返ることで、ユニットの核となるセントラルアイデア（CI）の基礎を築きます。児童は、うれしい、かなしい、くやしいといった感情のすべてが「心が動く」という状態であることを共有します。自分の心がどのような刺激に対して反応するのかを意識化していきます。

対象を「作品」へと広げ、対話とは具体的にどのようなことなのかを探究します。ここでは、絵画、文学、建築、大道芸など、多様な表現物を対象として扱いました。同じ作品であっても人によって受け取り方が異なることや、解釈は受け手の感性に委ねられていることを学び、自分なりの作品との向き合い方を確立していきます。

ピアニストの嘉屋翔太さんとの交流を通じ、より動的な対話の形を体感します。生演奏を聴く体験は、圧倒的な臨場感をもたらし、それ自体が深い対話となります。さらに、「作品との対話」が固定的なものではなく、その場の関わりの中で豊かに変化していくものであることを学びました。